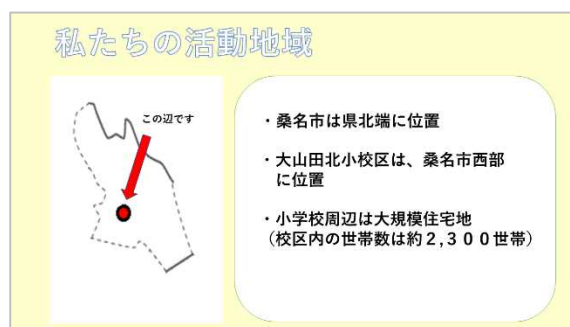


## 大山田北小校区防犯ボランティア（三重県）

皆さん、こんにちは。三重県桑名市から来ました大山田北小校区防犯ボランティアの五味と申します。本日は中部会場のボランティアフォーラムという、このような盛大な場所に呼んでいただきましてありがとうございます。皆さんに分かっていただけるよう、頑張ってお話しさせていただきます。短い時間ですが、どうぞよろしくお願いたします。

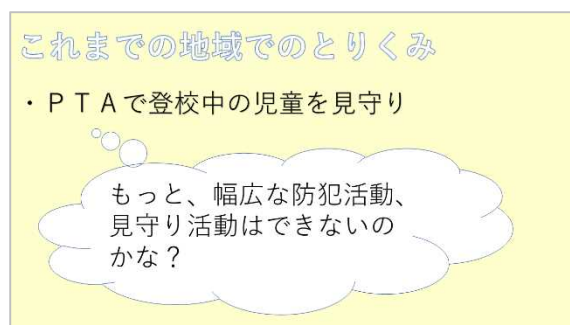


当団体は、今年の7月で3年を迎える、まだ若い団体です。当時はまだ防犯団体がなく、どうしたらよいだろうか、ということがきっかけで立ち上げとなりました。それ以降、まだ短い期間ではありますが、いろいろな活動をしてまいりましたので、発表させていただきます。



こちらが、団体の一部のメンバーの写真です。後ろの青パトは、桑名地域生活安全協会の車です。周りは主にPTAのママたちです。このようなメンバーで成り立っています。そのほか、自治会の方も入っています。

私たちの活動地域はこちらになります。桑名市は県の北端に位置しており、大山田北小学校区はその西部に位置しております。小学校周辺は大規模な住宅地で、校区内の世帯数は約2300世帯です。非常に多い世帯地域になっています。



大山田北小の特徴です。生徒数は570人で、非常に多いと思います。路地や公園など、子どもが集まる場所が多く存在しております。

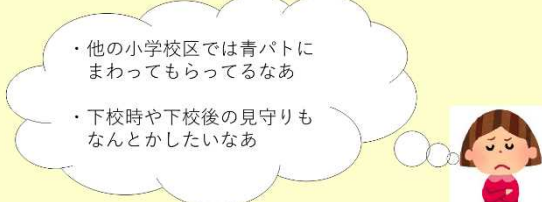
団体が立ち上がる前は、PTA で登校中の児童の見守りをしていました。しかし、もっと幅広い防犯活動や見守りはできないかと考えていました。

### 団体の設立

・令和2年7月、現在の団体代表者がPTA会長に就任

・他の小学校区では青パトにまわってもらってるなあ

・下校時や下校後の見守りもなんとかしたいなあ




私が令和2年にPTA会長になったときに、私たちの地域には青パトが回っていないことに気がつきました。隣の地域は回っているのに、なぜ、ここだけ回っていないのだろうと疑問に思い、隣の地域のママさんに聞いてみました。すると、「桑名地域生活安全協会に連絡してみたらどうか」と教えていただいたので、下校時の見守りもなんとかしたいという思いから、連絡してみたのです。すると「そこで団体を立ち上げたら回るよ」と言っていただけました。

それなら団体を立ち上げようと、小学校の校長先生、教頭先生方に相談しました。すると、「立ち上げれば青パトで回ってもらえるのなら、一緒にやろうよ」と言っていただけました。PTAの役員にも声をかけたら、「やろうよ」と。運の良いことに、ここで皆の気持ちが1つになりました。こうして、皆が「やろうよ」と言ってくれたことが、まず1つ目のきっかけになったと思います。そしてすぐに、桑名市から地域防犯活動団体として書類をいただき、記入しました。こうして立ち上がるまでは、スピーディにものごとが進みました。


現在は、PTAのお母さんたちが中心となり、36名で活動しております。PTA会員有志や自治会の方は、今は少ないのですが、その方たちにも入っていただいています。もちろん、先生方にも加わっていただいております。

私たちは、どのようにしたら子どもたちの防犯意識が高まるかと考え、ちょうど節分だったので、鬼の仮装をしてみました。右側の赤鬼が桑名市長、隣の黒鬼が私です。その左が桑名地域生活安全協会さんで、一番左が課長さんです。この4人で、防犯ホイッスルを配布して不審者への注意を呼びかけるという、ちょっと楽しいイベントをさせていただきました。公園で、子どもたちに啓発物品を配りながら注意を呼びかけたのですが、子どもたちがたくさん集まってきて列をなすという感じになりました。市長さんも驚いていましたが、参加できてよかったと感想を言ってくださいました。

### 団体の現況

- ・現在36名で活動
- ・主な構成員は・・・
  - ・校長先生、教頭先生
  - ・自治会有志
  - ・PTA会員有志


### 主な活動① 節分号



鬼の仮装をして青パトで巡回  
子どもたちへ防犯ホイッスルを配布しながら、不審者への注意を呼び掛け  
今年は桑名市長も参加してくれました

次に、「では、もっと、こういうことをしたらどうだろう」ということで、ハロウィンのときにはマスクに口を描いたものを、皆で着けました。そして、子どもたちにお菓子をプレゼントして「知らない人にはついて行かないで」と注意を呼びかける、ハロウィンならではの誘拐防止啓発活動をしました。


**主な活動② ハロウィン号**



ハロウィンの仮装をしてパトロール

子どもたちにお菓子をプレゼントし、注意を呼び掛けました

**主な活動③ クリスマス号**



青パトにクリスマスの飾り付けをし、自分たちはサンタの仮装をして巡回

下校後の子どもたちにお菓子のプレゼントを配りながら、不審者への注意などを呼び掛け

クリスマスには青パトに飾り付けをし、サンタクロースの格好をして、子どもたちに向けて不審者への注意を呼びかけました。これにも子どもたちはすごく喜んで、青パトに寄ってきてくれました。

私たちは、コロナが始まってからの立ち上げだったので、コロナに関係なく防犯活動を出発させました。

コロナでは、いろいろな地域のイベントがなくなりました。以前からの大山田北小で行っていた、「パトカーが来てくれて一緒に写真が撮れる」というイベントも、なくなっていました。

**主な活動④ パトカーと巡回**



桑名警察署のパトカーとパトロール

青パトにクリスマスの飾り付けをし、自分たちはサンタの仮装をして巡回


そこで、私たちは桑名警察署に相談しました。すると、交番からパトカーが来てくださって、皆で写真を撮れることになり、子どもたちは喜んでいました。

このように、「他人ごとではなく、自分たちの身を守る活動なのだ」と子どもたちに意識してほしいという気持ちから、子どもたちが親しみやすい活動を考えて、アイデアを出し合って活動してまいりました。

**防犯マスコットキャラクターの募集**

令和4年  
大山田北小学校の全生徒から  
“防犯マスコットキャラクター”  
を募集！！

最終候補の3作品！



102件の応募の中から  
最終候補3作品を選出！！

このように防犯活動をしてきましたが、マスコットキャラクターがあったら、もっと楽しくなるのではと、私たちは考えました。そこで、大山田北小校区の全生徒 570 人に対して、防犯マスコットキャラクターを考えてほしいと募集したところ、102 件の応募がありました。防犯会員を集めて審査をし、そこから 3 作品を私たちが選ばせていただいて最終候補としました。それを学校に貼り、子ども達に投票してもらうことにしました。ここでも子どもたちに参加してもらいます。こうして、皆で選ばせていただきました。



最優秀作品が、この「トラへいしょ長」です。当時2年生のえび名くんの作品ですが、この絵を元にデザイン化して、キャラクターとして決めさせていただきました。

そして、このキャラクターの表彰式を、体育館で行いました。最優秀賞と、優秀賞ふたりです。



### 大山田北小校区防犯ジャケット完成

令和4年4月

大山田北小校区防犯ジャケットをつくりました

背中にはマスコットキャラクター「トラへいしょ長」をプリントしました



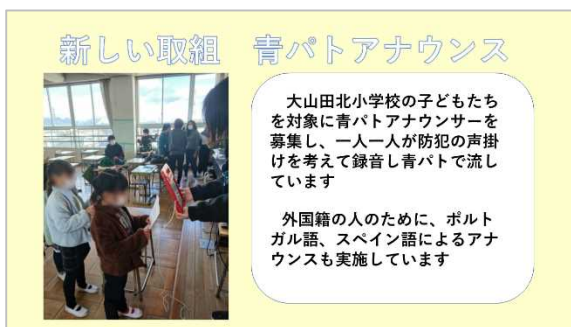
### 防犯ジャケット完成を記念し出発式を実施

令和4年5月

大山田北小校区防犯ジャケット完成を記念し出発式を行いました  
その後、青パトで地域のパトロールを実施し、公園で誘拐防止の啓発活動を行いました

防犯ジャケットを作ったので、その披露もしました。背中にマスコットキャラクター「トラへいしょ長」がプリントされています。私も、今、これを着ています。これは防犯会員の方にお配りしているものです。最優秀賞の本人も呼んで写真を撮りました。

これを記念して、出発式を行いました。その後に青パトで地域のパトロールを実施して、公園で誘拐防止の啓発活動を行いました。



### 新しい取組 青パトアナウンス

大山田北小学校の子どもたちを対象に青パトアナウンスを募集し、一人一人が防犯の声掛けを考えて録音し青パトで流しています

外国籍の人のために、ポルトガル語、スペイン語によるアナウンスも実施しています

次の取組です。

桑名地域生活安全協会の方に、月2回、一緒に青パトに乗せていただいています。そのときの「知らない人について行かないで」といったアナウンスは即興で行う必要があったので、私が録音したものでした。しかし、それが子どもの声なら可愛いかもしれないと思い、子どもたちに「アナウンスをしてほしい」と呼びかけてみました。すると、たくさん集まってきてくれました。大山田北小のもう1つの特徴として、外国籍の子どもが多いことがあります。ポルトガル語やスペイン語でもアナウンスすると、より良いのではと思います、外国籍の子にも来てもらいました。

このように、たくさん子どもたちが、この録音の会に参加してくれました。その音声を聞いていただきたいと思います。

このように、たくさん子どもたちが、この録音の会に参加してくれました。その音声を聞いていただきたいと思います。

～ パトロール音声 ～

このような感じで、5分ぐらい録音したものを青パトで流しています。

**今後の課題**

- ・当団体は、新しい団体で構成員が少ない
- ・下校時間帯の見守り活動に時間帯や地域の空白がある

↓

**子どもたちを守る地域の目を増やしたい**

青パトでのパトロール回数を増やすため、当団体でも青パトを持てるように自治会と連携して進行中


今後の課題といたしましては、新しい団体で、まだまだ構成員が少ないこと、下校時間帯の見守り活動に、時間帯や地域の空白があることです。子どもたちを守る地域の目を、もっと増やしていきたいと思います。そこで、青パトのパトロール回数を増やすために、団体で青パトを持てるように、自治会と連携して、今、進行中です。

**課題に対すとりくみ1**

**他団体・事業者との連携**

<p><b>他事業者との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宅老所「元気の宿」へ見守り活動への協力を依頼</li> <li>・ 活動用品を配布</li> </ul>	<p><b>他団体との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一回大山田北小校区防犯ボランティア会議を開催</li> <li>・ 各団体と意見交換</li> </ul>
--	---

**課題に対すとりくみ2**



課題に対する取組です。他団体・事業所との連携。

他の事業所との連携として、宅老所への協力依頼や活動用品の配布をします。

また、会議などで他団体と意見交換をして、より良い活動を目指します。

そして、さらに地域の見守りの目を増やすために、大山田北小のPTAの全世帯にこのような防犯パトロール札を配布して、「ながらパトロール」を呼びかけています。「随時」「何度も言う」ということで、お願いをしております。すると、徐々に下校時の見守りのメンバーが増加して、不審者情報も、今は全くない状態になりました。写真は、お配りしている札です。

最後になりましたが、今まで活動してきたことは、防犯活動は特別なことをしなくても自分の生活スタイルを維持しながら、気持ちさえあればできるということです。ゴミ捨てのときにちょっと子どもを見守る、といったことでもできます。ライフスタイルにあわせて、誰にでもできることなのではないかと思います。

- ・ 防犯活動は気持ちさえあれば誰にでもできること
- ・ 1人でも多くの方に無理なく参加してもらいたい
- ・ 今後もたくさんの人に声を掛け、子どもたちを見守る目を増やしたい
- ・ 今後は当団体でも青パト車両を持ち、今以上に防犯活動に役立てていきたいと考えており、「トラへいしょ長」が大山田北小校区の顔として地域住民の皆さんに認知してもらえるよう活動を続けていきたいです



ひとりでも多くの方に無理なく、参加していただき、長く、続けていただきたい。

今後も、たくさんの人に声をかけて、子どもたちを見守る目を増やしていきたい。

今後は当団体でも青パト車両を持って、今以上に防犯活動に役立てていきたい。

そして、このキャラクター「トラへいしょ長」を大山田北小校区の顔として、地域を皆さんに認知してもらえるように活動を続けていきたいと思っております。

今までの活動は、私たちだけではやはり、できないことでした。桑名警察の方々や、桑名地域生活安全協会さんの協力があって、今があると思っております。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

以上で発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

**Thank you!**  
ご清聴ありがとうございました

## 講 評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

大変興味深く拝聴いたしました。個性的な取組が、散りばめられているような印象でした。特に、会長さんがお知り合いの方と情報交換されて、PTA とも連携されているところが良いと思いました。このあたりに、新規のメンバーに加入してもらうようなヒントがあったのではないかと考えております。と申しますのも、お仕事をしている中で、私自身も感じるところでありますが、他の団体と連携するとなったとき、団体そのものにいろいろと依頼するというよりは、団体の中のナニナニさんと自分とがつながっていて、そうしたところで連携がスムーズに派生していく。それをまさに、私も感じているところです。非常に魅力的なつながりです。他団体との連携もされているということで、これからも続いていくのではないかと考えております。

また、子どもさんをターゲットにして、子どもさんをアナウンサーにしたり、マスコットキャラクターをつくったり、子どもさんたちの記憶に残る取組だと思います。やはり、幼少期にそうした活動を見聞きすることは良いことです。例えば、自分自身の経験を思い浮かべても、幼稚園に交通安全というテーマで警察署の方がいらっしゃったり、消防署の方がデモンストレーションしてくださったり、そうしたことは、非常に鮮明に覚えております。やはり、子どもの頃から意識付ける活動ということで、非常に魅力的だと思います。

また、多様性に応えるポルトガル語、スペイン語のアナウンスも魅力に感じます。例を挙げるとたくさんあるのですが、時間の関係で、このあたりにしたいと思います。ありがとうございました。

# 白山市子ども見守り連絡協議会（石川県）

皆さん、こんにちは。石川県白山市からまいりました、白山市子ども見守り連絡協議会会長の吉野堯です。パソコン操作は事務局長の宮本敏彦です。どうぞよろしくお願いいたします。



それでは、私たちが活動している白山市についてご紹介いたします。

白山市は、石川県の中心都市でありまして、かの有名な兼六園がございます金沢市の、南西部に位置しています。きれいな日本海や、一級河川である手取川、そして霊峰白山など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域でございます。海岸部から山間部まで、およそ 2700m の標高差がございます。また、白山市は、総面積が石川県全域の 18% を占め、県内最大の市でもございます。

ここで、ぜひご紹介したいことがあります。つい先日、5月24日、私たち白山市が日本で10カ所目となるユネスコ世界ジオパークに認定されました。見どころ、食べどころ満載の白山市に、機会がございましたら、ぜひお越しいただければと思います。

## 団体の概要

### 1 見守り活動の経緯

- \*平成13年6月に発生した小学校における児童殺傷事件を機に、見守り活動が開始
- \*現在、白山市内全小学校区内において見守り隊員が活動中

それでは、ここで本題に入ります。私たちの活動の経緯について紹介させていただきます。

活動のきっかけは、皆さま方もご記憶に残っているところだと思いますが、今でも忘れることができない平成13年6月に発生した、大阪の小学校における児童殺傷事件です。これを機に、その翌年、全国に先駆けて、お隣の金沢市で有志による活動がすぐに始まりました。児童の安全を優先に、我が白山市の町内会でも、活動できる有志を

募って見守り活動が始まりました。その後、石川県をはじめ全国的にも徐々に活動の輪が広がり、今では白山市内の小学校全校区内で、必ず見守り活動が行われている状況です。

それ以来、校区単位で、長年、バラバラに活動を行ってきましたが、平成 29 年春、活動されている有志の方から、このような提案がありました。

「市内小学校区内で多くの団体が見守り活動をしているが、さまざまな問題が発生しているという意見がある。こうしたさまざまな問題を解決するために、白山市全体の活動が見えるような協議会を立ち上げてはどうか。そして、皆で解決していかうではないか」。そこで、私を含む数人のメンバーで、準備委員会を立ち上げました。

立ち上げ後は数人のメンバーで、市内で活動されている全ての団体に出向き、現状の問題点や協議会設立の趣旨説明等を行いました。

そして、見守り活動における問題点として、次のようなことが挙げられました。

1 つ目は、「活動団体が多岐に渡り、情報共有が図られない」。活動している団体がそれぞれ独自のやり方で活動していることから、他の団体の動きがわからず、情報も入ってこないということです。

2 つ目は、「行政からの情報が入ってこない」。行政には学校も含まれますが、そのため児童の下校時間も分かりません。また、不審者が出没しても情報が入ってこないのです。

3 つ目、「ユニフォームの購入資金がない」。有志による団体活動でございますので、こうしたユニフォームを購入する資金すらございません。

4 つ目、「事件・事故に巻き込まれても補償がない」。これはユニフォームと同様、お金が全くないことから、傷害保険に加入することもできません。したがって、万が一、事件や事故に巻き込まれても、自損扱いになります。

このような問題点が挙げられました。

この 4 つの問題点を、把握しながら放置しておくわけにはいきません。

そこで、協議会立ち上げの準備を進め、平成 30 年 4 月 8 日、白山市子ども見守り連絡協議会が設立されました。この写真は、設立総会の後に開催された、出席者の皆さん方との意見交換会の模様です。

## 団体の概要

### 2 準備委員会の立ち上げ

### 3 見守り活動における問題点

- 活動団体が多岐に渡り、情報共有が図られない
- 行政からの情報が入ってこない
- ユニフォームの購入資金
- 事件事故に巻き込まれても補償がない

## 団体の概要

### 4 白山市子ども見守り連絡協議会の設立





この写真は、今、私も着ているユニフォームです。これまでは、ユニフォームは、各地域でバラバラでした。

ベスト、帽子もセットになっています。今、私がかぶっている帽子は夏用ですが、冬用の帽子もあります。これは白山市のご厚意で新しく制作されたユニフォームでございます。これで、市内全活動者のユニフォームが統一されました。

ユニフォームの制作と同時に、先ほどの問題点にあった保険についても解決しました。白山市のほうで、傷害保険に加入させていただきました。

ユニフォームには「白山市」の文字と、そして市章がプリントされております。また、活動者の名前も、低学年の児童でも分かるようにひらがなで書いてございます。

次に、協議会の加盟団体についてです。白山市は北部が町で、南部が山岳地域となっています。小学校は北部に集中しております。そうした中、本会には14団体が加盟しており、約1500の方が活動をされております。ちなみに、白山市内には19の小学校がありますが、活動団体は46団体、約2000の方が活動をされております。



これは、協議会の事業の1つである意見交換会の模様です。これを定期的で開催して、各地域の活動者や学校、PTA、警察、行政の方を交え、問題点や要望等を出していただき、集約をしながら意見交換会を行っております。その意見交換会で、先ほど述べた問題点の1つでもある「各団体間での情報共有」ができるようになりました。また、児童の下校時間や不審者の出没情報等についても、これまで学校から保護者に送られるメールを、我々活動者にも配信していただくことで解決となりました。

また、ここ3年間は、コロナで総会ができなかったのですが、通常は総会の後に、有識者の方

による講演会を行っております。写真は、総会が終わった後の講演会の模様です。

これは、それぞれの地域で見守り活動を行っている写真でございます。この写真の一番右には、ちょっと不思議な物体が見られます。これは古くなったNTTの公衆電話ボックスを改造して、活動される方の待機場所としたものです。なぜこのようなものが必要かと言いますと、この通学路には建物が一切なく、田んぼばかりだからです。特に冬の間は、田んぼの真ん中は非常に寒く、長時間外に出て児童を待つことができません。そのため、そのボックスの中で待機して、児童の顔が見えたら外に出て、「お帰り」と声をかけるようにしております。



見守り活動



総会

こちらは総会の写真です。

右の写真は、今年の総会が始まる前に写した役員の顔ぶれの写真です。

総会には、白山市長、白山警察署長、学校、PTAの方を招いております。左の写真は総会后、地域ごとに分かれて行っている意見交換会の模様です。

市内の小学校では、毎年11月から12月にかけて、感謝の集いを開いてくださいます。これは、子ども見守り活動している人を子どもたちが招き、「暑い日も寒い日も、私たちが安心して、また安全に登下校できるよう見守ってくださいましてありがとうございます」という感謝の気持ちを表す集いです。その集会では、子どもたちから感謝の言葉を書いた手紙をいただくのですが、これがその手紙の一部です。このように、手紙の場合もありますが、「これから寒くなるので体を温めて」とホットカイロをいただいたこともあります。



子供たちからの感謝の手紙

続きまして、今後の課題です。私たち協議会に課せられた課題として大きく2つございます。

1つ目は活動者の担い手不足です。最近、高齢化によって、活動をやめられる方が非常に多くなりました。その、やめられた方の後継者がいないという現状でございます。

2つ目。未加盟団体への加盟勧奨。先ほども述べましたが、市内で活動されている団体が46団体あり、そのうち現在14団体が加盟ということで、非常にまだまだ加盟団体が足りない状況で

す。加盟団体をこれからも増やす必要があります。

以上、2点が今後の課題です。

### 今後の課題

- 1 活動者の担い手不足
- 2 未加盟団体への加盟勧奨

### 課題解決に向けた取組方策

- 1 保護者への見守り活動協力依頼
- 2 表彰制度の導入を検討
- 3 連絡協議会の有用性について説明

課題解決に向けた取組方策です。

活動の担い手不足については、市内全体のPTA連合会の総会に出向き、保護者へ見守り活動の協力依頼をしています。保護者の多くは平日の日中は働いており、子どもが帰ってくる下校時には活動することはできないと思います。しかし、せめて登校時だけでも協力をお願いできないか。朝は忙しいとは思いますが、毎日とは言いません、輪番制でもよいので、活動協力していただけないかと提案しているところです。

また、見守り隊員の中には10年以上活動している方が、非常に多くいらっしゃいます。そうした方に、活動にやりがいをもってもらい、活動を継続してもらえるよう、新たに表彰制度の導入を検討しております。これも白山市にお願いする形になろうかと思っています。

未加盟団体に対しては、協議会の有用性について粘り強く説明をしていきたいと思っています。協議会への加盟によって、表彰制度の恩恵や、学校行政とのパイプ役としての活動が可能となるなど、そうしたことを説明していきたいと思っています。

最後になりますが、これからも「子どもの安全は地域全体で守る」という使命感を大切に、子どもたちとのふれあいを大切にしながら、いつまでも活動を続けてまいります。

以上で、私たちの発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

### 最後に

これからも、子どもの安全は地域全体で守るといふ使命感を大切に子どもたちとのふれあいを大切にしながらいつまでも活動を続けて参ります。



ご清聴ありがとうございました

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

貴重なお話をありがとうございました。特徴的なところに絞って、お話をさせていただきます。

やはり北陸は、特に冬は寒いということもあり、その中で電話ボックスを活用して待機場所として利用する。これは非常に個性的だなと感じました。私も北国出身ですが、特に冬は雪も降りますし、どのようにして継続可能な活動にするかというところ、各団体さんも大変苦慮されているのではないかと思います。そうした中で、このような工夫されているのが魅力的だと感じました。

また、小学校のお子さんたちが、メッセージをくださる。これも重要な、相互の関わりです。先ほども述べましたが、記憶に残っていくことが、非常に大事だと思います。もちろん、既にPTAの方々、保護者の方々への活動参加依頼もされている。やはり、子どもが知っているということは、後々、大人になつときに、「子どもの頃に見たことがある、聞いたことがある、参加したことがある」ということが、将来の人材を発掘する種になっていくのではないかと考えております。

表彰制度も非常に重要です。私は専門が心理学なのですが、やはり表彰という形で周りの人から賞賛されることが、やる気を持続することに関して非常に重要になってきます。他団体様では、長く活動されている方には腕章の色を変えているといったことを耳にしたことがあります。いろいろな工夫があるのではないかと思います。

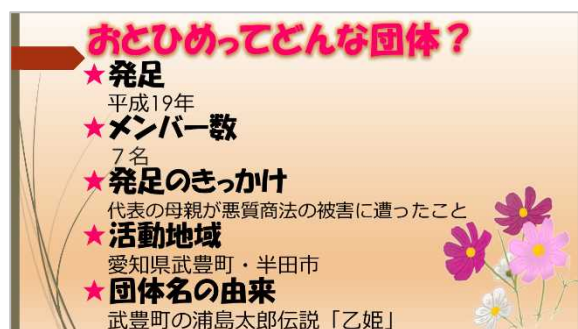
そして、約1500人という大規模な組織をまとめられるご苦労や熱意に、私も、もう足を向けて寝られないと、そうした思いでいました。以上になります。ありがとうございます。

# 啓発寸劇ボランティア おとひめ（愛知県）

皆さん、こんにちは。私たちは、啓発寸劇ボランティア おとひめです。よろしくお願いします。

私は、代表の伊佐治信子と申します。こちらは団員の靱山哲子、榊原一枝です。

今から活動概要について、発表させていただきます。



おとひめの発足は平成19年です。現在、7名のメンバーで活動しています。

発足のきっかけは、私の母親が悪質商法の被害に遭ったことです。高齢者が詐欺などの被害に遭わないようにするために、何か良い方法はないかと考えた結果、分かりやすく詐欺などの手口を伝えるために、啓発寸劇ボランティア おとひめを立ち上げました。

活動地域は、愛知県武豊町と半田市が中心です。おとひめという名前は、活動地域である愛知県武豊町に伝わる浦島太郎伝説の「乙姫」が由来です。



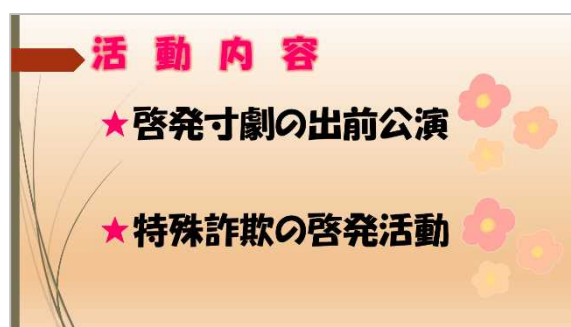
武豊町と半田市は愛知県の西部、知多半島の中央部に隣接した地域です。

武豊町は、良質な水と温暖な気候に恵まれ、全国三大醸造郷と呼ばれ、味噌とたまりしょうゆが名産品です。また、先ほどご紹介いたしました浦島太郎伝説などが有名です。



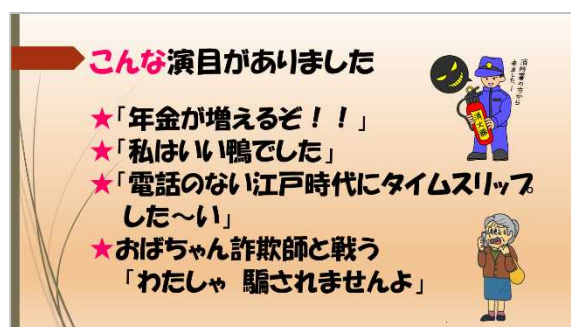
半田市は、日本三大運河である半田運河や、『ごんぎつね』の新美南吉記念館、半田赤レンガ建物などの観光名所のほか、ユネスコ無形文化遺産に登録された山車祭り「亀崎潮干祭」などで知られています。

おとひめの表彰歴は、平成 22 年に「愛知県警察本部長・愛知県防犯協会連合会長連名表彰」、平成 25 年に「愛知県知事表彰」、平成 30 年に「中部管区警察局長・中部防犯協会連絡協議会長連名表彰」など、ほか多数ございます。



私たちの活動スローガンは、「地域のつながり・絆・支え合い」で、詐欺などの被害に遭う人をなくしたいという思いで活動をしております。

主な活動内容は、啓発寸劇の出前公演と特殊詐欺の啓発活動です。



啓発寸劇の出前公演は、年間約 20 回から 30 回行っております。1 回の公演時間は 30 分から 60 分です。

演目内容は特殊詐欺、悪質商法です。これまでに公演を行った演目数は、19 演目となります。公演を行う場所は、福祉施設や公民館、憩いのサロン会場など、高齢者が集まる場所です。

演目の一部をご紹介します。

「年金が増えるぞ!!」、「私はいい鴨でした」、「電話のない江戸時代にタイムスリップした～い」、「おばちゃん詐欺師と戦う「わたしゃ 騙されませんよ」。

このように、コミカルな演目が多いのが私たちの寸劇の特徴です。



公演活動の様子です。



毎月、第1水曜日に、定例会を開催しています。公演予定などの打ち合わせをした後、寸劇の練習を行っております。

手先の器用なメンバーが、電話機などの小道具を手作りしています。



こちらは、練習の様子です。5月から、新作に挑戦しています。

より良い寸劇サークルにするために、気付いたことはお互いに意見を出し合ったり、お互いの健康を気遣ったりと、メンバー同士のコミュニケーションを大切にしています。

**寸劇のこだわりポイント**

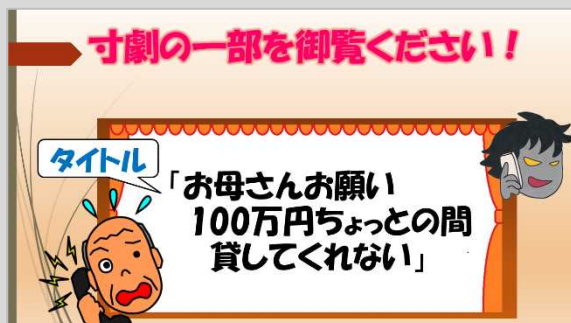
- ★実際の事件を参考にする
- ★最新の手口を取り入れる
- ★専門用語は使わず、わかりやすく
- ★堅苦しくせずコミカルに
- ★時代劇風の台本に変えるなどの工夫

寸劇のこだわりのポイントは、新聞の記事やテレビのニュース等の実際の事件を参考に、最新の手口を取り入れ、シナリオを書き、公演することです。また、専門用語は使わずに分かりやすく、堅苦しくせず、コミカルにすること。毎回同じではなく、時代劇風の台本に変えるなどの工夫をしています。

そして公演の都度、半田警察署の署員さんに来ていただき、最新の詐欺手口や注意事項などを、会場の皆さまにお話ししていただいております。

ここで、寸劇の一部をご覧ください。タイトルは「お母さんお願い 100万円ちょっとの間貸してくれない」です。2分の動画となっています。

～ 寸劇 動画再生 ～



そのほかの活動として、特殊詐欺の啓発活動があります。

平成30年度に愛知県地域自主防犯活動活性化事業に応募し、特殊詐欺啓発用のパンフレット、メモ帳やマスクを作成し、公演会場や駅、お祭り会場のほか、民生委員さんに同行して高齢者のお宅を訪問し、合計3500枚を配布しました。

**特殊詐欺の啓発活動**  
平成30年度  
**愛知県地域自主防犯活動活性化事業**  
★作成したもの  
パンフレット、啓発品（メモ帳、マスク）  
★配布場所  
公演場所、駅、祭り会場、高齢者宅  
★配布枚数 3500枚

**活動のやりがいを感じる時**  
寸劇を見て  
★楽しそうに笑ってくれたとき  
★「楽しかったよ」「詐欺に遭いそうになった時、被害を受けずに済んだよ」などと声をかけてもらったとき

活動のやりがいを感じる時は、寸劇を見た方が楽しそうに笑ってくれたとき、そして公演後に「楽しかったよ」、「詐欺に遭いそうになったとき、寸劇を思い出して、被害に遭わずにすんだよ」などと、あたたかい言葉をかけていただいたときです。

発足から16年ですが、活動継続のコツは、楽しく活動すること、コミュニケーションを大切にすることだと思っています。

見ている方に笑っていただけるように、楽しんで演じること、練習などでは和気あいあいとした雰囲気を大切に、メンバー同士よく話をすることを心がけています。

**活動継続のコツ**  
「楽しく」「コミュニケーションを大切に」  
★見ている人に笑ってもらえるように  
楽しく演じること  
★和気あいあいとした雰囲気を大切に  
メンバー同士よく話すこと



今後の課題としては、メンバー全員が70歳以上になりましたので、活動継続のためには若手メンバーの加入が必要だと思っています。

課題解決のため、ボランティア仲間に声をかけて勧誘したり、積極的に地元紙などの取材を受けたりしています。また、自治体の支援を受け、ホームページで活動紹介することなどにより、より多くの人におとひめの活動を知っていただき、興味をもってもらえるように、広報に力を入れています。

以上で、活動概要の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

**今後の課題**  
**メンバーの高齢化**  
発足から16年経過し全員70代に  
**活動継続のために**  
若手メンバーの加入が必要  
**課題解決のために・・・**  
★ボランティア仲間の勧誘  
★積極的にメディアの取材を受ける  
★武豊町の支援を受け、ホームページで活動紹介

**ご静聴**  
**ありがとう**  
**ございました**

## 講 評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

大変貴重なお話をありがとうございました。寸劇を利用して、悪徳商法や特殊詐欺などの話題に特化して活動されている団体様は、非常に貴重だと思います。その存在だけでも魅力的です。やはり、高齢者の方が特殊詐欺の被害に遭いやすいという現状がありますので、地域に出て行かれて活動される、これが非常に魅力的だと思います。

新聞報道あるいは口コミなど、メディアの力でどんどん活動が広がっていくことが、非常に大事ではないかと感じます。YouTube もされているのでしょうか。こうした動画を全国に発信していくことが、目に止まる機会になろうかと思えます。もしかしたら、似たような活動をされている方がいらっしゃって、しかし、やり方が分からないとなったとき、YouTube あるいは口コミ、新聞報道等で、非常に勇気づけられる方々がいらっしゃると思えます。寸劇 DVD を作成されているとのことですが、教育機関としても、そうした DVD がほしいと思いました。

また、新しくメンバーを、というお話がありました。私は7年ぐらい、保育士や幼稚園の先生を育成する専門学校や大学で働いておりました。こうした劇は、彼女たちは得意です。そうしたところにアプローチするのも、1つの手かもしれません。彼女たちも、公民館などでお子さん向けの劇をしていて、わりと得意なのです。さまざまなところに人材が隠れていると思えます。

これからも、メディア展開をして発信を続けると、さらに魅力が伝わっていくだろうと感じました。以上です。ありがとうございました。

## 藍川自治会連合会地域安全パイロット（岐阜県）

皆さん、こんにちは。藍川地区の防犯見守り活動について、発表させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



### 藍川地区の概要

人口 5,620人（最高時8,898人）  
高齢者 2,566人  
高齢化率 45.66%（市内50地区中最高率）  
藍川小児童数 152名（最高時1,066名）  
藍川北中生徒数 114名（" 555名）  
（令和7年度から岐阜市初の施設一体化型の義務教育学校となる）  
※ 令和5年4月1日現在

岐阜市の北東部に位置し三方を山に、一方を長良川に接した一周約12キロメートルの自然豊かな地区

まず、私ども藍川地区の概要でございます。人口は5620人、高齢者は2566人。高齢化率は45.66%で、これは岐阜市内50地区中、今年4月で最高となりました。今までは2位でしたが、1位だったところが2位になって、入れ替わりました。

小学校の児童数は152名。ちなみに、今年4月に入った新1年生は、たった16名でした。藍川北中の生徒数は114名。これは最高時の1/5で、小学校の場合は1/7に減少しました。

このような事柄を踏まえて、令和7年度、再来年度から、岐阜市初の施設一体化型の義務教育学校となります。これにより、中学校の校舎に小学生が入ります。小学校1年生から6年生まで、中学校は3年ですので、1年生から9年生までであると思ってください。小学校は廃止になります。このような教育が始まります。

私どもの地域は、岐阜市の北東部に位置しております。三方を山に、一方を長良川に接した、1周12kmほどの自然豊かな、こじんまりとしたところでございます。そのようなところでございますので、サルやイノシシが、たまに出ます。そうしたときには、見守り活動の防犯車が急発進する。このようなところでございます。

これは私たちの地域を、山頂のテレビの送信塔から見たところです。

中学校と小学校は隣接しております。真ん中に公民館があります。

山と山を結んで、自動車道路がございます。これは、長良川右岸道路でございます。もう1つ、手前に山があるのですが、その3つの山をくり抜いてトンネルを掘り、岐阜市の中心地へ15分ぐらいで行けるようになっております。

写真の一番右には長良川が流れております。今頃は毎晩、鵜飼いをやっております。その鵜飼いのところまで、約8km。そのようなところでございます。

下の左には、「旧吊り橋」と書いてあります。昭和の初めから昭和43年度まで、こうした情緒豊かな吊り橋がありました。現在の赤い藍川橋は上下1車線しか通れませんので、現在、新藍川橋を建設中でございます。今、橋台の3本目ができつつあるという状況です。上下2車線で右折車線が入る、本格的な橋ができます。まだ6、7年はかかるかと思えます。そのようなところでございます。



## 藍川地区が発足した経緯

### 【原因】

- 核家族化の進展
- 高度経済成長時代の始まり
- 日本列島改造論(過疎を密に)
- 陸の孤島といわれた所の丘陵地開発
- 人口増加・公共施設不足
- 分校の歴史のところに本校
- 自治会連合会発足

### 【結果】

昭和40年代に入り国の列島改造施策により、岐阜市近郊は丘陵地を切り開き新しい住宅団地が造成されました。鉄筋4階建ての県営住宅、岐阜市の公営住宅、分譲地等、昔は陸の孤島ともいわれた所も様相が一変し、今から50年前の昭和48年に自治会連合会と小学校が設立され、**藍川地区**が誕生しました。



## 地区初の団地造成・従業員住宅として 134戸完成



私たちが発足した経緯でございます。

核家族化の進展。高度経済成長時代の始まり。そして、日本列島改造論。これは元総理の田中角栄さんの、本の名前でございます。「新幹線や道路を全国津々浦々に造りましょう」「四国には海峡大橋を建設しましょう」。そうした時代背景がありまして、私どもの地域の東部、あるいは北部地域においては丘陵地を開発し、団地が造成されました。そして、今からちょうど50年前、藍川地区が誕生いたしました。同時に、学校も誕生いたしました。

百楽町団地。これは岐阜市問屋連盟の従業員住宅として、134戸が建てられました。この百楽町という名称は、当時の、岐阜市長であった松尾吾策さんがつけた名前でございます。

## 団体の概要

○団体名 藍川自治会連合会地域安全パイロット

○代表者 神田 定夫

○発足の経緯

昭和48年当時、地区の小学校創設以来、**PTAと青少年育成市民会議による夜間パトロールが父兄を中心に実施**されてきました。

藍川自治会連合会で**青パト団体を結成する声**が上がり、平成17年11月2日に青パト団体「**藍川自治会連合会地域安全パイロット**」が結成され、団体としての活動を開始することとなりました。

## 安心安全のまちづくり防犯組織

○「藍川自治会連合会地域安全パイロット」

平成17年11月2日発足

活動時間 午後7時～9時(地区内の危険箇所等巡回)

活動曜日 活動団体

月曜日 自治会連合会、小学校PTA

火曜日 青少年育成市民会議、自治会婦人部

水曜日 交通安全協会藍川支部

木曜日 体育振興会・中学校PTA

金曜日 自治会連合会



○児童生徒「見守り隊」

平成18年5月発足 自主的な活動

活動内容＝登下校時に、子どものあいさつ

声かけをして不審者に気を配る

ウォーキング・犬の散歩・お買い物等、いつでも気

軽に、都合のよいとき

現在約30人が活動(着衣、保険岐阜市負担)



私たちの団体名は、「藍川自治会連合会地域安全パイロット」と申します。学校ができ、自治会ができた当時は、個人の車でパトロールをしたこともあります。平成17年に、全国で青パトが許可されるような時代になりまして、岐阜市で6番目となるパイロット団体、「藍川自治会連合会地域安全パイロット」を立ち上げました。

私たちは、安心・安全のまちづくりの防犯組織です。写真の右側のジャンパーは、パイロットのジャンパーです。月曜日から金曜日まで、夜を中心に活動しています。

この団体ができたとき、学校から、児童・生徒の「見守り隊」を作ってほしいと要請されました。そこでボランティア組織をつくりました。「自分の都合の良いときに、ジャンパーを着て歩いてほしい、それが犯罪の抑止力になる」とのことで、このような団体もできました。現在、30人ほどが活動しております。

ユニフォームには、着衣や帽子、腕章があります。こちらは岐阜市の生活安全課から出しているだけであります。保険は岐阜市の教育委員会に負担してもらっています。

## 青色防犯パトロール車による防犯活動

- ・ 主に、夜間での**青色防犯パトロール活動**
- ・ 当番制で会員が青パト車両に乗車して、地区内の危険場所、自動車道路の高架下、公共施設(学校、公民館、公園等)、また不法投棄されやすい場所を巡回
- ・ 児童・生徒を見守る「**見守り隊**」と連携をとりながら、児童・生徒の登下校の時間帯に横断歩道、通学路などで見守り活動を行う
- ・ **声掛け、あいさつ運動、防犯啓発活動**などを継続



## 青色防犯パトロール車による パトロール発会式



平成17年11月2日(岐阜市藍川公民館)

パトロール車による、防犯活動の様子です。

先ほど申しましたように、夜、自動車道路の高架下、公共施設、また不法投棄されやすいような場所を巡回しています。金曜日の朝には児童・生徒「見守り隊」と連携をとって、青色回転灯車で回って、啓発活動もしております。

これは平成17年11月2日、発会したときの公民館での様子でございます。

## 藍川地区青パト寄贈式



令和3年4月1日藍川  
公民館で青パト宝くじ号  
の寄贈式

## 青色防犯パトロール車の保管場所



平成17年11月から令和3年3月まで、  
16年間活躍した青パト車  
無事故で頑張ってくれてありがとう!

私たちの地域には、実は青色回転灯車がありませんでした。そのため、消水防団の水防車の屋根に回転灯を乗せて、走っておりました。しかし、ようやく2年前に、青パト宝くじ号が寄贈されることになりました。写真はその寄贈式の様子でございます。

この青色回転灯車は、消水防団の、消防車の隣に保管しております。青パトとして16年間活躍してくれた水防車は、今は外に出してあります。

## 安心安全のまちづくりあいさつ運動



「おはようの言葉がはずむ通学路」。学校と学校の間には公民館があります。その広場に、あいさつ運動の標語を書いた看板を付けた、三角塔があります。三角塔は今、3基ほどありますが、これをつくるお金、あるいは修理するお金、標語を募集するお金はどこから出るか。学校を取り巻く団体、「藍川北中校区児童・生徒を育てる会」。長い名前なので「育てる会」と呼んでおりますが、そうしたところが年に5000円、それから小学校

と中学校のPTA、自治会、「青少年」などは3万円ぐらい出して、それを積み立てて運営をしております。こうしたあいさつ運動もしております。

## 登下校時の見守り活動



## 登下校時の見守り活動



次に、通学路の見守り活動の様子でございます。ここに、中学生と小学生高学年が写っている写真があります。これは後輩のために年に3回、1週間ほどですが、こうしたことを行っております。

次に、上の左の写真ですが、大きくなならない品種のフレンチブルドッグと、鞆を背負って登校します。もう少し先に行きますと、お友達がおります。お友達に会うとお母さんにリードを渡して、お母さんはそれからお家に帰る。子どもたちは、またそれから 1km ぐらい歩いて学校へ通う。そうした風景の写真でございます。



左の写真は青色回転灯を載せた水防車です。下の写真は、最近導入された青パト宝くじ号です。金曜の朝の見守り風景でございます。

私どもの校区のスポーツ少年団、野球、バレー、体操、サッカーの4部は、毎年8月の第1月曜日に、「愛の一声運動」をしております。これは北警察署と交通安全協会藍川支部の指導により、運転手さんに「事故に気を付けて」と防犯グッズを手渡す運動です。これが「小さな親切」運動本部の目に留まりまして、こうしたご褒美をいただきました。

### 抱えている課題

○課題  
毎日、防犯活動や見守り活動、環境美化活動などを行っているが、**高齢化による地域の防犯活動の担い手が不足**しており、今後も現在と**同等レベルで継続できるかが課題**となっている。

○課題の解決に向けた取組方策

- 定例会議での検討
- 年3回**機関紙を発行**し自治会を通じ配布
- 機関誌に各種団体の**会員を募集**する案内を掲載

抱えている課題です。

いろいろとございますが、高齢化による地域の防犯活動の担い手が、どうしても不足してきます。その課題の解決に向けた取組方策として、毎月、各種団体の定例会で検討しております。また年3回、機関紙を発行し、自治会を通して配布している団体があります。そこをお願いし、会員やボランティアを募集する案内を掲載してもらいます。このような取組をしております。

最後になりましたが、子どもの数も減少し、高齢化率も市内最高、少子高齢化の見本のような当地区です。ボランティアスタッフを募っても、応募がないのが実情です。しかしながら、当地区が発足してちょうど半世紀、いろいろな難問を、その都度解決してきました。買い物、病院へ行く手段がないときにはコミュニティバスを導入し、現在は1日あたり70人ほどが利用しております。



#### 一おわりに

子どもの数も減少、高齢化率も市内最高、少子高齢化の見本のような当地区です。ボランティアスタッフを募っても応募がないのが実情です。しかしながら当地区が発足して半世紀、いろいろな難問をその都度解決してきました。買い物、病院へ行く手段がないときには、コミュニティバスを導入、高齢者向けの困りごと相談、「小さな手助け藍川」等、今こそ地域の底力と培った英知を結果して、この防犯活動にあたりたいと思っています。

**ご清聴ありがとうございました。**

高齢者向けの「困りごと相談」もしております。高齢者になりますと、いつもできていたことが、できないこともあります。社会福祉協議会の助成金を使い、「小さな手助け藍川」という団体を立ち上げ、昨年度は90件ほど、困りごと相談に乗っております。そうした地域の底力と培った英知を結集して、この防犯活動にあたりたいと思っております。ご清聴どうもありがとうございました。

## 講 評

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司

貴重なお話をありがとうございました。私は岐阜にも何度か足を運んだことがありますし、長良川のことも知っております。三方を山に囲まれ、一方が長良川という環境の中で、心配になる点があるとすれば1点、不法投棄のリスクがあることです。その意味でも、死角を潰すといった活動が、非常に重要になります。それを実際にやっつけらっしゃるのだらうと感じました。

また、夜間のパトロールを、午後7時から9時までされているとのことでした。これは、団体様によってはなかなか難しいとお聞きしています。本当に、頭が下がる思いです。

また、交流団体として、児童・生徒の見守り隊の方々とも連携されています。また、藍川スポーツ少年団さんとも連携されて、さまざまな活動を展開されています。団体を超えての、連携の力というものが非常に特徴的であり、私は魅力を感じました。もちろん、物理的な制限や制約、予算の制約もあるかもしれませんが。それでも、どこかとコラボレーションしていくことが非常に力になる。その意味で、魅力的な活動だと思いながら、ご発表を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。